6 いざというときは

夜中の急な発熱や日曜日にけがをしたときなど、平日の日中と違って多くの医療機関が休診中の時間帯でも、救急の患者に対応できるよう、札幌市には、電話で相談できる救急窓口や応急処置を行う救急医療機関があります。

①救急電話相談窓口

「救急安心センターさっぽろ」 **24時間365日**

電話番号#7119（ダイヤル回線・一部ＩＰ電話の場合は011-272-7119）

ポイント **急な病気やケガのとき、看護師が症状に応じて緊急度を判定し、119番への転送や、医療機関の案内を行います。**

「産婦人科救急相談電話」 **毎日19時～翌日９時**

電話番号011-622-3299

ポイント **助産師等が産婦人科に関する救急相談を受け付けます。**

「精神科救急情報センター」 **平日17時～翌日９時、土日祝９時～翌日９時**

電話番号011-204-6010

ポイント **精神保健福祉士などの専門家が緊急の精神科医療の相談を受け付けます。**

そのほか、インターネットでも、症状にあわせた対処方法などを調べることができます。

救急安心センターさっぽろ・緊急度自己判定（セルフトリアージ）ホームページ

http://www.city.sapporo.jp/hokenjo/qq7199/selftriage.html

「こどもの救急」ホームページ（対象年齢生後１か月～６歳）

http://kodomo-qq.jp/index.php　運営：日本小児科学会

これらの救急電話相談窓口では、看護師など専門の資格を持った相談員が症状を聞いて、適切な助言をします。

そのためにも、詳しく症状を聞く必要があるので、症状のある方、またはお近くで症状を確認できる方が電話してください。

②救急医療機関

●札幌市夜間急病センター（内科・小児科・耳鼻咽喉科・眼科）

住　　所：札幌市中央区大通西19丁目WEST19　　電話番号：011-641-4316

診療時間：内科・小児科　　毎日午後７時～翌日７時

耳鼻咽喉科・眼科　毎日午後７時～午後11時

●札幌歯科医師会口腔医療センター（歯科）

住　　所：札幌市中央区南7条西10丁目　　電話番号：011-511-7774

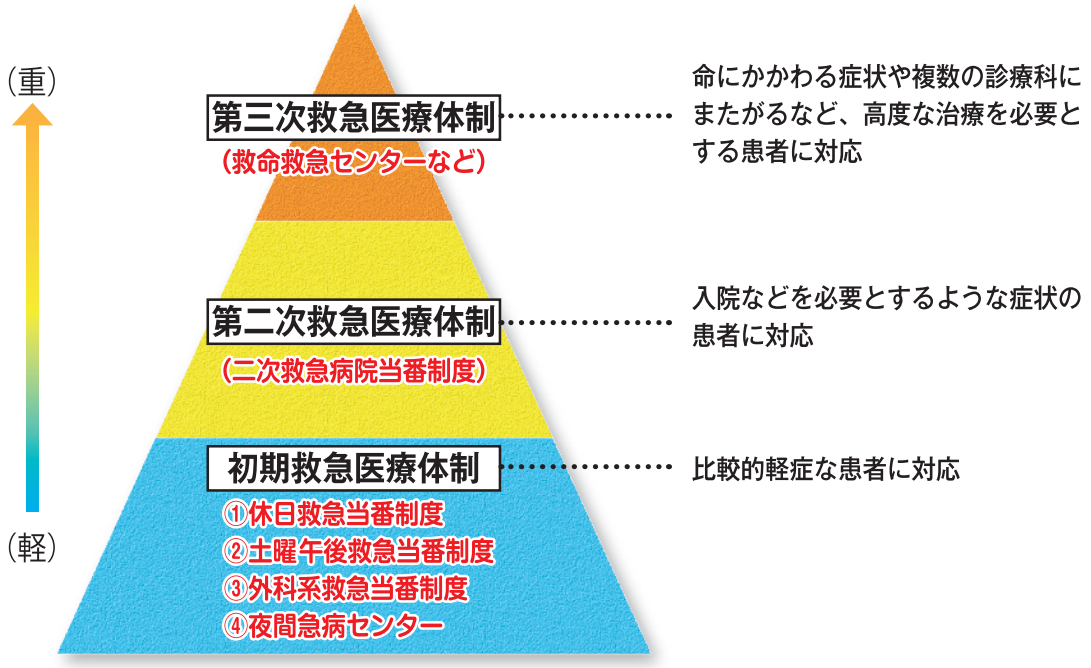
診療時間：毎日午後７時～午後11時

治療はあくまで応急処置になりますので、症状が改善しない場合には、近くの医療機関を受診してください。

ちょっと豆知識

札幌市の救急医療体制は、患者の症状に応じ、下の図のように３つの階層でできています。

このように、それぞれの医療機関の特性を生かし、機能を分化することで、限りある救急医療機関を有効に活用し、「必要とする患者に、必要な医療」を提供することが可能となっています。



札幌市では、新聞などで救急当番をお知らせしていますが、初期救急医療機関の当番だけとなっています。

なぜ、二次や三次の医療機関を公表していないかというと、上の図にあるとおり、患者の症状に応じて、初期から三次まで役割がそれぞれ異なるからです。

二次・三次救急医療機関では、初期救急医療で対応できない重症の患者のために、常に準備しています。そこに軽症の患者まで来てしまうと、重症の患者に対応できなくなってしまうので、広くお知らせしていないのです。

二次や三次救急医療機関へは、初期救急医療機関の医師や救急隊が症状を判断し、救急車などで搬送しています。

③ためらわず救急車を呼んでほしい症状

突然具合が悪くなったとき、救急車を呼んでいいか迷うことがあるかもしれません。救急安心センターさっぽろ（P12）では、そのような相談に、看護師が緊急度を判定し、適切な助言を行っていますが、次のような症状があるときは、ためらわずに、すぐ119番に電話してください。

ためらわず救急車を呼んでほしい症状

頭

- ●突然の激しい頭痛
- ●突然の高熱
- ●支えなしで立てない ぐらいふらつく

腹

- ●突然の激しい腹痛
- ●持続する激しい腹痛
- ●吐血や下血がある

手足

- ●突然のしびれ
- ●突然、片方の腕や足に 力が入らなくなる

顔

- ●顔半分が動きにくい、 あるいはしびれる
- ●にっこり笑うと口や顔の片方 がゆがむ
- ●ろれつがまわりにくい、 うまく話せない
- ●視野がかけたり、 ものが突然二重に見える
- ●顔色が明らかに悪い

胸・背中

- ●突然の激痛
- ●急な息切れ、呼吸困難
- ●胸の中央が締め付けられる ような、または圧迫される ような痛みが２～３分続く
- ●痛む場所が移動する

- ●喉に物を詰まらせ呼吸が苦しい
- ●変なものを飲み込んで意識がない

- ●大量の出血を伴う外傷
- ●広範囲のやけど

- ●意識がない
- ●ぐったりしている

- ●乳児の様子が おかしい

顔

- ●くちびるの色が 紫色で呼吸が弱い

腹

- ●激しい下痢・嘔吐で水分が 取れず意識がはっきりとしない
- ●激しい腹痛で嘔吐が止まらない
- ●血便が見られる

頭

- ●頭を痛がってケイレンしている
- ●出血が止まらない、意識がない

胸

- ●激しい咳やゼーゼーして 呼吸苦があり顔色が悪い

手足

- ●手足が硬直している

※その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合は、重大な病気やけがの可能性がありますので、ためらわずに救急車を呼んでください。

救急医療を守っていくために!

高齢化の進展などに伴い、救急車での搬送者数は年々増加していますが、なかにはタクシー代わりに救急車を利用するケースもみられます。

また、救急ではないけれど、昼間は仕事で忙しいからと、夜間や休日に救急病院を受診する“コンビニ受診”も社会的に問題となっています。

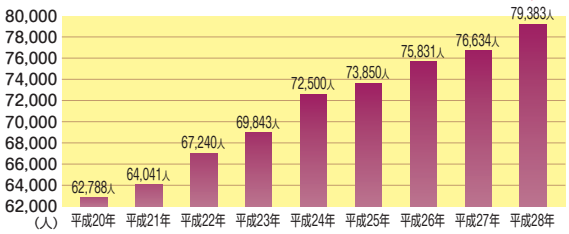
救急でないのに、このように救急医療資源（救急車や病院）を利用してしまうと、本当に救急医療を必要とする方が後回しになってしまうこともあります。

みなさんの行動が人の命や健康を守ることになります。救急医療を正しく利用しましょう。

札幌市の救急出動状況

【救急車での搬送者数の推移】

このうち52.5%が軽症者!



ちょっと豆知識

医療機関や介護の現場では、医師以外にも多岐にわたる職種の方が働いています。ここではその一部を紹介します。

まとめ

- かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師・薬局を持ちましょう
- 医療機関には出来るだけ通常の診療時間内にかかりましょう
- 医師や看護師などと十分にコミュニケーションをとるよう心がけましょう
- 疑問や不安があるときには、医療機関や札幌市などが運営している相談窓口を積極的に活用しましょう
- 危険な症状が見られた場合には、ためらわずに救急車を呼びましょう